
東方幻想水

鴉砲丸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方幻想水

【Nコード】

N9477Y

【作者名】

鴉砲丸

【あらすじ】

ある日神の部下のミスによって死んだ水上みずかみつかさ司は、悪魔に転生して東方の世界へ。司に待ち受ける運命やいかに

序章 『あれはデビル、デビル（ry）』

……ん？

ああ、もう始まっていたのか

初めまして、俺の名前は水上^{みずかみ} 司^{つかさ} ”元” 人間だ

そう、”元”だ

じゃあ今は何かって？

「悪魔か……」

何故か悪魔になりました

まあ理由はわかってる

あれはある日の出来事だった

悪魔回想中……………

「ここは……………何処だ？」

俺はある日目を覚ますと真っ白な空間にいた

俺は確かに家に居たはずなのだが何故かこんな所にいた

しばらく呆然としていると背後から声をかけられた

「お主が水上司だな？」

振り返ると古代ギリシャの様な服をきた老人がいた

「誰だあんた？」

「まあ一言で言えば神じゃな」

神？いやいやそんなまさか

「神なんて頭大丈夫か爺さん？」

「初対面の年寄りにまさかな辛辣な発言！？いやまあそう言われてもおかしくはないが酷くないかのう……」

そう言っつて爺さんが落ち込む

まさか本当に神なのか？

「そのまさかじゃよわしは正真正銘神じゃ」

「心を読んだ……！？」

「いや今のは普通に表情からじゃ」

ちっ、つまらん

まあいいか

「とりあえず俺がここにいる説明をしてくれ。神なんだろう？」

「その神にそんな態度を取るお主はなんなんじゃ……」

爺さんがため息を一つついて手にもっている杖を振ると、俺と爺さんの間に椅子とテーブルが現れる

「まあ座るといい、いろいろと込み入ってる話をするからの」

俺は爺さんに言われた通りに椅子に座り話を聞く

話の内容を要約すると

・曰く、部下のミスで俺が心臓麻痺で死んだ

・曰く、こちらの手違いで死んだため転生という形で生き返らせることができる

・曰く、同じ世界は無理なので違う世界になる

・曰く、転生先は選ばないため人間ではない可能性がある

・曰く、その世界もランダムに選ばれるため危険な世界の場合何か

しら能力を付与する

大体こんな感じだ

てか死んだのか俺

そして目の前に神、つまり死後の世界というやつかなるほどやっと
現状を理解できた

「何故そんなに冷静なんじゃ……」

「そういう性格だからというしかないな」

まあそんなことはさておき

「で？俺はどんな世界にどんな生き物で転生するんだ？」

「まあ待て、今決める」

爺さんはそう言うと二つの水晶玉をテーブルに置いた

「お主から見て左が転生する世界、右が転生先じゃ。さあ水晶玉に
触るんじゃ」

言われた通り水晶玉に触ると、水晶玉に文字が浮かんできた

左には東方、右には悪魔と浮かびあがった

「ほう……東方の世界に悪魔として転生か……」

「悪魔はわかるが……東方の世界ってなんだ？」

「そうじゃの、簡単に言えば現代日本の何処かにある結界に覆われ
た幻想の集まる世界じゃ」

幻想ねえ……なんかよくわからんが面白そうだ

「ふむ……東方の世界となると能力を与える必要があるかの」

「能力？」

「うむ。東方の世界では人間、妖怪問わず『〜程度の能力』という能力を持つものがある。悪魔となって転生する場合その時点で強い部類に入るが能力があったほうがより強いと言ったところかの」

へえ……面白そうだな

「能力はそうじゃの、『水を司る程度の能力』なんてどうじゃ？」

水か……高圧縮された水を高圧放水すれば鉄すら斬るし大気中にも存在するし使い勝手もいいな

それに司るだから水に関することはある程度なんでもできるということか

「気に入ったようじゃの。ならそろそろ転生を始めるぞ」

爺さんは杖を俺に向け聞き取れない言語で何かを唱える

すると俺の体は光り輝き、俺の意識が遠のいていく

「そして今に至る……か」

俺は記憶の回想を終えて辺りを見渡す

見た感じ人の気配が無い……というよりは生物の気配が無い

「……まさか今存在する生命体は俺だけなのか？」

俺は少々鬱な気持ちになりながらも適当な洞窟を見つけて一日を終えることにした

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9477y/>

東方幻想水

2011年11月28日13時52分発行